

JA全農ウィークリー
WEEKLY

4
|
5
面

第13回JAグループ 国産農畜産物商談会開催

3面

飛騨牛繁殖研修センター
（岐阜県本部）



岐阜県美濃加茂市に開所した飛騨牛繁殖研修センター(3面)



JA十和田おいらせの竹ヶ原幸光組合長(右)にグローバルGAP団体認証取得を報告するJA十和田おいらせ野菜振興会の甲田一博会長(右から3人目)ら(2面)



産地と実需者のニーズをつなぐJAグループ国産農畜産物商談会(4-5面)

2 ロンドンで初の 「全農東北フェア」開催(輸出対策部)

JA十和田おいらせの生産者が
ゴボウでグローバルGAP
団体認証取得(青森県本部)

6 JAズームイン(JA島原雲仙)

7 青果情勢(園芸部)

**8 JR東日本品川駅構内に新業態
「みのりみのるキッチン」オープン
(フードマーケット事業部)**

JAタウンショップ紹介 広島とれたて元気市 (JA全農ひろしま)

**Web版JA全農ウィークリーは
こちらから**



<https://www.zennoh-weekly.jp/>

**Web
限定**

**第2回山梨県
TACパワーアップ大会開催**
(山梨県本部)

News!



ロンドンで初の「全農東北フェア」開催！

世界各国取引先の賛同を得て、東北で輸出用米の産地が拡大

輸出対策部

全農は3月9～10日、ロンドンで、東北産米などを販売する「全農東北フェア」を開きました。震災復興を祈念したもので、初の開催です。

全農が平成27年から取り組む輸出産地づくりでは、震災復興の面もあり、宮城・福島から開始しました。この取り組みにロンドンの取引先であるTKトレーディング社の賛同を得て、東北産米を中心に輸出してきました。こうした世界各国の取引先との結び付きにより、現在、輸出用米の産地は5県で136銘柄（約600トン）まで拡大しています。

「全農東北フェア」では、

宮城、福島の米を中心に特別価格で販売しました。また、東北の銘菓、東北産米を使用したすしや天丼を販売、和牛ステーキ弁当の実演販売も行いました。お客さまから「東北のお米が一番おいしい」といった声もあり、多い方は一度に4袋も購入するなど好評でした。

これからも輸出を通じ、JAと共に生産者の支援と地域農業の振興に全力をあげていきます。



あっという間に完売した東北産米



多くの邦人、ロンドン市民が訪れた会場

News!



ゴボウでグローバルGAP団体認証取得

青森県JA十和田おいらせ管内の生産者4人がJAでは野菜で県内初

青森県本部

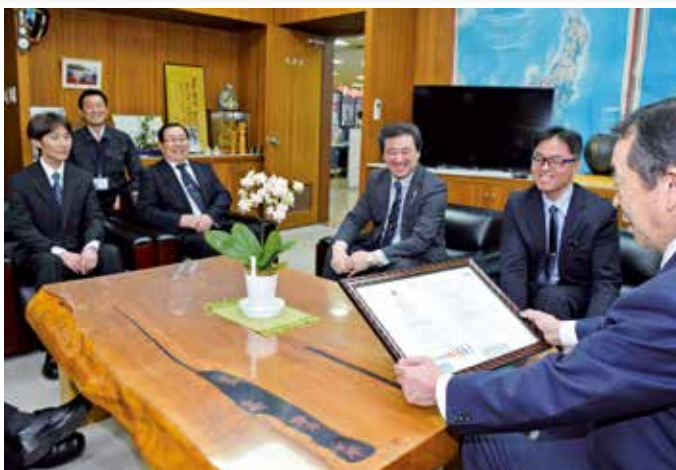
青森県JA十和田おいらせ管内のゴボウ生産者4人は、2月22日付でグローバルGAP団体認証を取得しました。JAグループの支援で野菜では県内初です。

今回の認証取得は、ゴボウ産地をアピールするとともに、GAPによる食品安全・労働安全などの取り組みによる生産者の農業経営改善を目的に取り組みを開始しました。

取り組んだ生産者からは、農場の整理整頓など大変なことも多かったが、GAPの仕組みを理解することで農業経営に対する意識が向上した、などの声がありました。

JA十和田おいらせ野菜振興会の甲田一博会長は、「GAPの導入により高品質なゴボウを生産し、JA十和田おいらせのブランド強化を図っていききたい」と今後に向けた決意を語っています。

JAグループは、GAP支援チーム（事務局…全中・全農）を設置し、GAPの団体認証取得を支援する現地アドバイザー事業を実施しています。



JA十和田おいらせの竹ヶ原幸光組合長（右）にグローバルGAP団体認証取得を報告するJA十和田おいらせ野菜振興会の甲田会長（右から3人目）ら

岐阜県本部×岐阜大学×岐阜県

産学官が一体で生産基盤の強化を目指す

「飛騨牛繁殖研修センター」を開所

岐阜県本部は岐阜大学、岐阜県と「飛騨牛繁殖研修事業に係る連携協議会」を設置し、「岐阜大学応用生物科学部附属岐阜フィールド科学教育研究センター美濃加茂農場内 飛騨牛繁殖研修事業」（飛騨牛繁殖研修センター・愛称：飛騨牛B1センター＝Hidaagyu breeding and training center、美濃加茂市）を3月28日に開所しました。

【岐阜県本部】



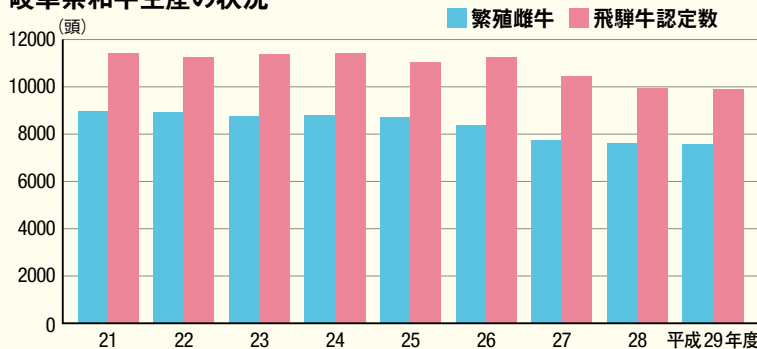
飛騨牛繁殖研修センターの開所を祝い関係者がテープカット

岐阜県の和牛生産は、繁殖雌牛頭数・肉用牛飼養戸数・飛騨牛認定頭数が、平成21年度の8960頭・680戸・1万1437頭から平成29年度には7580頭・514戸・9916頭まで減少しています。繁殖雌牛の減少は子牛市場への上場頭数の減少・相場の高騰を招いており、「新規就農者の確保・担い手の育成」と「繁殖雌牛の増頭」が喫緊の課題となっています。

大学・県との連携

岐阜県本部と岐阜大学は平成26年度から「飛騨牛倶楽部」を立

岐阜県和牛生産の状況



ち上げ、学生が主体となって生産者や関係者とともに今後のブランドの方向性や魅力発信方法などを討議しています。また、平成29年3月には農業担い手などの人材育成、農産物とその加工

品の研究・開発とブランド化、農村の活性化に取り組むため、県の立ち合いで大学と連携・協力に関する協定を締結しました。これを受け、施策検討を行い、就農研修機能を付与した繁殖センター「飛騨牛繁殖研修センター」設置へと動き始めました。

2卵移植の実証とICT技術の活用

「飛騨牛繁殖研修センター」では繁殖事業と研修事業を行います。繁殖事業は、繁殖雌牛100頭規模（黒毛和種34頭、交雑種66頭）で取り組み、交雑牛を活用することで初期投資が少ない繁殖経営を実証します。

また、同時に交雑牛への2卵移植技術を活用した双子生産技術の確立やICT技術の活用による省力化・生産性の向上する体系構築を目指します。



牛舎に導入した繁殖雌牛

研修事業は、2年間で研修期間とし、就農希望地域ごとに就農支援協議会を立ち上げ、行政やJAグループ、生産者組織による技術指導や地域との関係性構築などのソフト面の支援を行います。同時に空き牛舎のあつせんやアパート牛舎の貸与などのハード面でも就農支援を実施していきます。

「飛騨牛繁殖研修センター」は、岐阜県本部、大学と県の産学官が一体となって繁殖研修施設を運営する全国でも初の取り組みです。関係団体が「一丸」となって岐阜県の宝である「飛騨牛」の生産基盤拠点となるよう事業を進めていきます。

第13回

JAグループ

国産農畜産物 商談会



産地と実需者のニーズをつなぐ、 JAグループの商談会 地域色あふれる全国の農畜産物・ 加工品をマッチング

JA Zenroh Weekly

特集



エントランスでは注目のテーマ(産地づくり・商品開発、GAP、TACの取り組み)紹介と関連出展者の商品を展示紹介しました



開会セレモニーで鏡開きをする左からJA全中の脇岡常務、農林中央金庫の奥理事長、長澤会長、農林水産省産業連携課の高橋課長、日本生活協同組合連合会の本田会長、日本農業法人協会の山田会長、JA全青協の水野会長

開会セレモニーでは長澤豊会長が主催者代表あいさつをした後、来賓の農林水産省・日本生活協同組合連合会各位からごあいさついただき、鏡開きで盛大に幕を開けました。

JAや生産法人など120団体から出展いただき、ブースや商談コーナーでは盛んに名刺交換や商談が行われました。

予約制個別商談会では成約率向上に向け、事前に出展者とバイヤーのマッチングを行いました。商談数は255件(前

JAグループ国産農畜産物商談会を3月12日、13日の2日間、東京・有楽町の東京国際フォーラムで開催しました。本商談会は国産農畜産物とその加工品の販売チャネル拡大を目的とし、全農がJAバンクと共に主催しています。会期中は食品スーパー、生協、外食・中食、食品卸、食品メーカーなどから5034人に来場いただきました。

営業開発部・
耕種総合対策部

「TACの店」16JAが出展 生産にかける思いを 直接バイヤーへ

「TACの店」の出展は、担い手農家からの販売力強化の要望に応えるため、産地の魅力や担い手の生産にかける思いを直接バイヤーにつなげる機会として実施しています。今回は16JA(22ブース)が出展し、JAの担い手に出向く担当者(TAC)や担い手農家が、地元の農畜産物や加工品を広く実需者にPRするとともに、販路拡大を目指しました。

ブースでの商談に加えて、会場エントランスでの出展商品の展示や出展者プレゼンでの商品紹介も実施しました。

今後は、今回の商談会で得られた実需者とのつながりやニーズを尊重し、さらなる生産振興や商品開発が展開されることが期待されます。

TACのエントランスコーナーでは、「TACの店」の出展商品やTACの取り組みについて紹介、PRしました



JAのTACや担い手農家が、出展商品の特徴や魅力をバイヤーに説明し、販路拡大を目指しました

国会議員を神出理事長が案内。左から白いリボンを着けた藤南真也参議院議員、野村哲郎参議院議員、林芳正参議院議員



第13回JAグループ 国産農畜産物商談会



セミナーでは全農戸井チーフオフィサーがこれから起こる変化と全農の新たな取り組みについて講演しました。その他、注目のテーマ別4セミナーも好評でした

予約制個別商談では事前登録いただいたバイヤーとの商談が熱心に行われました



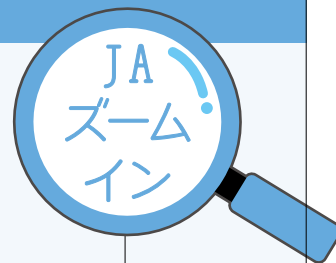
新たな取り組みとして食シーンをイメージした全農メニュー提案コーナーを設置。グループ商品を使用したメニューは来場者から注目を集めました

全農広報部の「生きものの育むお米コーナー」では、生物多様性や環境保全に取り組むJAたじま「コウノトリ育むお米」、JA佐渡「朱鷺と暮らす郷」などを紹介しました



年比10.6%)と増えており、JAグループの国産農畜産物への需要の高まりを感じました。出展者への当日アンケートでは、「年ごとに新しいつながりや情報を得る事ができている」、「新商品・開発商品について顧客の声を聞ける場として今後も積極的に参加したい」などの前向きなお声をいただきました。

この商談会をきっかけとしてバイヤーの皆さまと全国産地がパートナーとなり、日本農業の輝く未来につながることを期待します。



ブロッコリーの栽培が拡大

第48回日本農業賞の大賞受賞

JA 島原雲仙
(長崎県)



概要	平成30年3月31日現在
正組合員数	1万1488人
准組合員数	1万7240人
職員数	907人
販売品取扱高	313億9千万円
購買品取扱高	143億6千万円
貯金残高	1619億7千万円
長期共済保有高	8749億2千万円
主な農畜産物	イチゴ、ジャガイモ、ダイコン

JA 島原雲仙は、平成13年に旧11JAが合併し誕生した長崎県の島原半島を管内に持つJAです。耕地面積が半島全体の約25%を占め、また1年の平均気温が17度と温暖で、日照時間も長く、

農産物の栽培に適した自然環境に恵まれています。

「日本一元気な産地の実現」
掲げ多様な農畜産物生産

農産物の生産量、価格はもちろんですが、元気な生産者を育成しようという意味も含めて



雲仙ブロッコリー部会が第48回日本農業賞の大賞受賞

「日本一元気な産地の実現」をスローガンに掲げています。栽培品目はイチゴ、ジャガイモ、ダイコン、タマネギ、ニンジン、レタスなど多様で、ミカン、ビワ、梨などの果樹、菊などの花き、子牛生産を中心とした畜産も盛んです。中でも、近年はブ

ロッコリーの栽培面積が増えていきます。平成29年度は200畝、30年度は50畝増えて250畝まで拡大しました。将来的には300畝さらに広げて500畝も視野に入れていきます。このブロッコリー栽培をけん引しているのが、雲仙ブロッコリー部会です。同部会は今3月、JA全中、NHKなどが主催し日本各地の意欲的な農業経営や未来の豊かな生き方のヒントとなる食や農の活動を表彰する、第48回日本農業賞の大賞を受賞しました。

自己改革を推進し
半島農業・地域の振興を

しかしながら厳しい農業情勢に加え、TPP問題、農

氷詰めて鮮度を保つブロッコリー



家の高齢化、後継者不足など、ともすれば半島農業の活力が低下する傾向にあることも否めない問題です。JAは現在、政府が定める農協改革集中推進期間を見据え、「農業の振興」「地域の振興」「組織・経営基盤の確立」

の三つの柱を軸に、自己改革の取り組みを進めています。JAが最も大切にしている組合員・地域の皆さまとの「ぬくもりのある信頼づくり」を基盤に、これからも「日本一元気な産地の実現」に取り組んでいきます。



栽培拡大が進むブロッコリー

[青 果 情 勢]

(園芸部)



野 菜

キャベツ・ハクサイなどの春物出荷が本格化

概況

4月は、キャベツ・ハクサイ・ダイコン・ニンジンなどの春物の出荷が本格化してきます。

キャベツは、神奈川・千葉・愛知などが中心の出荷となります。気温上昇に伴い各産地潤沢な出荷が続くでしょう。出荷量は潤沢だった前年並みを見込みます。

ハクサイは、茨城などが中心になります。3月に入ってから気温上昇と適度な降雨でおおむね順調な生育で、平年並みの作柄になっています。出荷量は、前年をやや上回る見込みです。

レタスは、茨城・兵庫などが中心の出荷となります。生育順調で安定した出荷が見込まれます。中旬以降は後続産地の出荷が始まります。出荷量は、前年並みを見込みます。

ダイコンは、千葉などの関東産地が中心の出荷となります。気温上昇と降雨により関東産地は前進出荷の見込み。肥大も順調となっています。出荷量は、前年並みを見込みます。

ニンジンは、千葉などの秋冬作から徳島などの春作に切り替わります。徳島産は大幅な前進出荷となっており、不足感のない出荷となるでしょう。出荷量は、前年をやや上回る見込みです。

トマトは、熊本や関東産地が中心の出荷となります。出荷量は前年をやや上回る見込みです。

キュウリは、西南暖地と関東産地からの出荷となります。出荷量は、成り疲れから前年並みか前年をやや下回る見込みです。

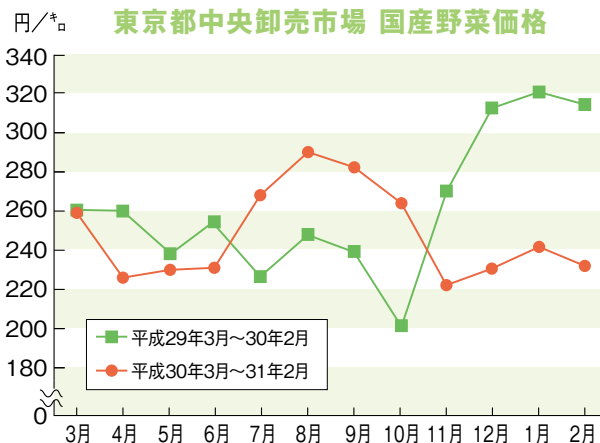
パレシヨは、北海道が切り上がり九州産地の春作が増量します。北海道の貯蔵物は小玉傾向。鹿児島は本島および離島からの出荷、長崎は中旬以降の出荷開始を見込みます。出荷量は、潤沢であった前年並みを見込みます。

タマネギは、北海道の貯蔵物と佐賀などが中心の出荷になります。出荷量は、前年を上回る見込みです。

店頭

前半は「新学期・新生活」をテーマとした催事、後半はゴールデンウィーク絡めた企画が展開されます。気温の上昇に伴って、サラダ商材、浅漬けなどの売り場も広がっていきます。

東京都中央卸売市場 国産野菜価格



主産県
だより

3月は、レタス、ブロッコリー、トマト・ミニトマト、アスパラガス、イチゴ、リンゴの主産県が一堂に会し、作況見通しや販売対策の共有化、消費拡大の進め方について協議しました。今後も主産県による情報交換会などを定期的に開催し、出荷情報や販売情報の共有を図ります。



果 実

引き続きイチゴと中晩かん類が中心

概況

4月の国産果実は端境期となるため、一年の中で最も入荷の少ない時期となります。そのため、オレンジなどの輸入果

実が増える時期でもあります。

品ぞろえの中心は、イチゴ・中晩かん類で、その他メロン、小玉スイカなどが回ります。

イチゴは、栃木・福岡・佐賀・静岡などが中心の出荷となります。3月に入り暖かい日も多く、日照量もあったため、順調な出荷となり、4月も大きな出荷の山谷はなく、安定的な出荷が続く見込みです。出荷量はおおむね前年並みを見込みます。

かんきつ類では、「デコポン」、「清見」に加え、「甘夏柑」、「河内晩柑」の出荷が始まります。全体的に生育は順調で、着色も良く前年よりはよい出荷ペースとなっています。出荷量はおおむね前年並みとなる見込みです。

メロンは、昨年は低温により生育が遅れましたが、今年は順調な生育となっており、3月下旬から熊本の「アンデス」、末頃から茨城の「オトメ」の出荷が始まります。出荷量はおおむね前年並みを見込みます。

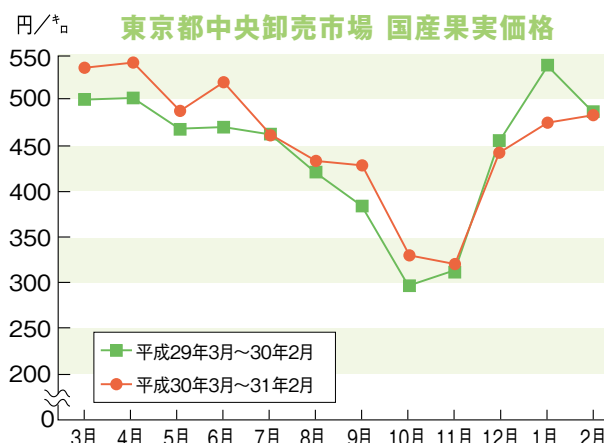
スイカ類も、生育は順調で、3月は前年を上回る出荷量となりました。4月についても、中旬は一時2月の曇天の影響から数量伸び悩む時期がありますが、全体的にはおおむね前年並みの出荷量となる見込みです。

ピワは、長崎のハウス物を中心に千葉からも出荷が始まります。出荷量は冷え込みにより少なかった前年をやや上回る見込みです。

店頭

果実売り場では、徐々に新しいアイテムが彩り豊かに増え出します。また、お客さまの消費行動も、春から夏の果実については、気温によって大きく変わりますので、店舗では、週末の気候をにらみ、店頭の売り場作りが行われます。

東京都中央卸売市場 国産果実価格





JR東日本品川駅
構内に新業態店舗

「みのりみのるキッチン」初出店 国産農畜産物の弁当・総菜を販売

フードマーケット事業部



弁当・総菜を販売する「みのりみのるキッチン」



ご飯、主菜、副菜を選べる弁当販売コーナー

「みのりみのるプロジェクト」は3月22日、弁当・総菜を販売する「みのりみのるキッチン」を、JR東日本品川駅構内エキュートに初出店しました!

中食産業の市場規模は昨年度10兆円を超え、今後大幅な伸長が見込まれますが、肉類を中心に食材の多くを輸入に依存しているのが実態です。こうした現状を打開するために、外食産業で蓄積したノウハウを投入し、使用する全ての食材を国産農畜産物で賄う中食産業モデルを確立します。品川へお越しの際は、ぜひお立ち寄りください。

ショップ概要

店名	みのりみのるキッチン エキュート品川店
住所	東京都港区高輪3-26-27 JR東日本品川駅構内エキュート品川
営業時間	9:00~22:00(日・祝~20:30)
定休日	無休



食と農のWEBマガジン

Apron
エプロン

Web限定の「レシピ検索」「菜園づくり」etc.
ぜひご覧ください!

Webマガジンは
こちらから

Apron Web

検索

<https://apron-web.jp/>



JAタウン |

検索
クリック

広島とれたて元気市 (JA全農ひろしま)



JAタウンは
こちらから



広島の極太アスパラガス(約1kg).....2880円

「広島とれたて元気市」ショップから紹介するのは、広島県北部を中心に、丹精込めて生産された極太のアスパラガスです。

太陽の恵みをいっぱいに浴びて、にょきにょき育った広島のアスパラガスは、濃いグリーンが特長。

広島のプロ野球団選手が「走・攻・守」の三拍子そろっているように、この時期にしか味わえない「広島の極太アスパラガス」も、「太い! 甘い! やわらかい!」と、おいしいポイントが三拍子そろっています。

お客さまからもおいしいと評判で、広島で取り扱う商品の中でも繰り返しご購入いただくことの多い商品です。

ゆでたり蒸したりしてそのままがぶり! とお召し上がりください。

この時期にだけ味わえる旬の味を、ぜひご賞味あれ。

JA全農のインターネット
ショッピングモール

▶ご注文は <http://www.ja-town.com>

▶お問い合わせは shop@ja-town1.com

※本誌を通じていただいた注文などで取得した個人情報は、商品等の発送にのみ使用します。